

名古屋大学オフィシャル 石山 良太
大村幸一郎
林 千尋
川島 実紗

<調査依頼>

スタート時において、チャイマー音 5 つのうち 4 つ目（すなわち正規出走時刻より 1 秒早い時刻）でスタート枠を外れ、競技を開始したと思われる選手が複数見受けられた。仮にそのような事態が実際に発生していた場合は、正規の出走時刻で出走した選手との間に公平性が保たれていないと思うため、そのようなことが起きていたかどうかを調査していただきたい。

<回答>

スタートカメラの映像とスタート役員へのヒアリングにより、競技結果に影響を与えるフライングは見受けられなかった。

<提訴>

調査依頼への回答の説明は不十分であり、“競技結果に影響を与えるフライングは見受けられなかった”という記述に不服である。

公式掲示板によれば、“計時は 0.1 秒単位だが、実際のスタートのタイミングに関して 0.1 秒単位での正確性を担保しているのか”という質問に対して、“選手権においては、ひとつのチャイマーを使用するため、全選手 0.1 秒単位で同じ間隔でスタートの合図が為されます。また、スタートの合図以前の出走を防ぐため役員が監視しています。”と、運営は回答していた。

一方、名古屋大学オフィシャルによりスタート地区における中継映像を確認したところ、競技開始を示すチャイマーの合図以前に動き出す選手が見受けられたうえ、それに対し静止を促すようなスタート役員の動き・その後の対処は見受けられなかった。具体的な例として、ゼッケン No.105 の選手は 4 つ目のビーブ音でスタート枠から出走する動作をしているのにも関わらず、スタート役員による対応は特にみられなかった。

上記のような現状から、公式掲示板で示されている“スタートの合図以前の出走を防ぐため役員が監視しています”という文言が徹底されておらず、スタートのタイミングにおいて 0.1 秒単位での正確性が担保されていたとは考えられない。

よって、0.1 秒単位での順位決定は不適切であり、秒単位での順位決定が妥当であり、結果の再集計をすべきであると主張する。